

---

# バカとテストと召喚獣さんっ!?

やまたい

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バカとテストと召喚獣さんっ!?

### 【Nコード】

N5205BA

### 【作者名】

やまたい

### 【あらすじ】

原作「バカとテストと召喚獣」アニメ版を基盤として、明久たちのその後の学園生活の話です。もちろん試召戦争もあるよ！

## 第一問「バカと日常と転校生っ！」

「吉井っ！ サッカーゴール運んでおくように！」

「へーい…」

どうも。文月学園二年Fクラス所属、吉井明久です。

今、観察処分者の仕事、雑用をこなしている最中です。

『それが終わったら世界地図運んでおくように！』

「へーい…」

観察処分者とは、ここ文月学園にある特殊なシステム、>試験召喚システム<を使った罰則で、試験召喚システムとは、テストの点数に比例した強さを持つ召喚獣で戦うと言っものなんだけど…

「重いなあ…何で僕ばかり…」

「それが観察処分者の処遇だ。」

「まったく…」

そう言いながら召喚獣にサッカーゴールを運ばせる。

本来召喚獣はものに触れられないんだけど、観察処分者のそれはものに触れられる。

でも、僕にとってメリットは何もないし、それどころか…

「しまった！手がすべっ…痛あっ！」

召喚獣の感覚が召喚者にフィードバックされるから、疲れるし痛いんだよね…

『HRのあとは小テストやるから、ここまでの範囲復習しておくよっにー…』

時は少し飛んで、FクラスのHR。

「まず、今日は転校生がいる。よし、入ってこい！」

「何だ、このクラスに転校生とは、珍しいな。」

そういったのは、僕の悪友、坂本雄二。赤いツンツンした髪が特徴だ。

「そだね。他のみんなも同意見みたいだよ？」

「どんな奴だろうな？」

「女子だといいな。」

「だな、この教室はどうしても男むさいしな……」

「……」

「……」

「少し違うみたいだがな」

「そだね。さて……」

ガラツと音をたてて、Fクラスのボロいドアが開いた。そして入ってきたのは――

黒髪のショートカットの、男子だった。

……

「ちいつ！」

「えっ！？何！？何で入った瞬間に舌打ちされるの！？」

なぜか彼には親近感を感じる。

「ありや、驚いちゃったか…」

「そりやそうだ。教室に入っていきなり舌打ちとは誰も思わないかな。みる、鉄人も頭を抱えてるぞ」

「でもまあ、少し残念だったよ…あれ？誰か走ってきた。」

ガラッ

「すみません、遅刻しました！」

そう言って入ってきたのは、セミロングの銀髪の少女だった。

そしてFクラスは……

『うおおおおおおおおおっ！！』

『生きててよかったーっ！』

盛り上がってました。

「すまん…これがFクラスだ…」

「あはは…」

「おいおい、鉄人も呆れてるぞ…」

「あの二人も苦笑いしてるよ…」

「…ゴホンっ！では二人に自己紹介をしてもらおう。」

「えーと…初めまして、水無月高校から転校してきました、堺翔

太です。よろしく願いします！」

「えっと、同じく水無月高校からきました、中川涼子です、よろしく願いします！」

「…というわけだ。仲良くするように。それと、二人はこのあと試験召喚システムについて説明するから、こっちに來い。」

「はい！」

「あと、坂本、吉井も俺についてくるように！」

「……………はい……………」

…と言う訳で、鉄人に連れられて体育館にやって來た。「よし、全員いるな。…では、これから試験召喚システムの説明をはじめます。…承認！」

鉄人の声と同時に、体育館全体に召喚フィールドが展開される。『Training』の文字が流れてるってことは…総合科目、それも実習用フィールドか…懐かしいな…

「よし。じゃあ吉井たちは召喚獣を出してくれ。」

「へい。」

「試験召喚！」

ポンッ

Fクラス 吉井明久 & Fクラス 坂本雄二

総合科目 1980点 & 2475点掛け声と

同時に、足元に毎度お馴染み幾何学模様が浮かび上がり、召喚獣が姿を現した。

「へー、これが召喚獣医か」

「なんかかわいいねー（むにむに）」

とかいって、中川さんが僕の召喚獣をさわってきた。

「そんで、こっちの召喚獣も…あれ？触れない？」

「ああ、僕の召喚獣は特別で、物に触れられるんだけど、普通の召喚獣は触れないんだよ。」

「へー、そうなんだ。 （びろーん）」

「痛い痛い痛いつ！伸ばさないでっ！」

「えっ、何で？」

「僕の場合召喚獣の痛みが僕にフィードバックされるんだよおっ！」

「えっ！？、ああ、そうだったの？ごめんっ！」

そう言っつてやっと召喚獣が解放される。助かった…

「（ゴホンッ）あー、遊ぶのはそのくらいにして、説明に入るぞ。」

あ、そうか。今回は召喚システムの説明のために来たんだっけ。

「知っているとは思うが、この召喚獣はテストの点数に比例した力を持っている。今は実習用フィールドだから武器は持っていないが、通常のフィールドで召喚すれば、武器も装備される。じゃあ、二人とも召喚してみる。」

「はい！」

「試獸召喚！」

**第一問「バカと日常と転校生っ！」（後書き）**

もうひとつの方の小説も一段落しないままこっちを書いております。

今回の話では、転校生やら召喚実習やら色々出てきております。）

それほどでもないか？）

では、また次話で。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5205ba/>

---

バカとテストと召喚獣さんっ!?

2012年1月14日13時54分発行